

機能的筋力低下の新規陽性徴候に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年5月16日～2026年3月31日

〔研究課題〕 機能的筋力低下の新規陽性徴候に関する後ろ向き研究

〔研究目的〕 機能的神経障害(functional neurological disorder:FND)、いわゆるヒステリーは、神経内科外来患者様の1割を占めるとも言われる common disease であり、その診断、器質的疾患との鑑別は大きな課題です。一般臨床では、FND による運動麻痺(機能的筋力低下)が器質的疾患と誤診されたり、あるいは原因不明とされたり、また、器質的疾患の除外のために多くの検査がなされ、医療費の無駄となっていることが多く見受けられます。研究メンバーの一人である園生はこれまでも abductor sign、paradoxical wrist flexion、weak gluteus maximus などの筋力低下が機能的であるか器質性であるかを鑑別する徴候を報告しております。我々は現在までに、これ以外にも機能的筋力低下の診断に役立つ臨床徴候に気付いており、本研究ではこの臨床徴候を一定のエビデンスに基づいて報告することを目的としています。

〔研究意義〕 機能的筋力低下を正確に診断し、不要な検査を回避できるようになれば、意義が大きいと考えます。

〔対象・研究方法〕 2019年以降から2024年3月までの、当科及び関連施設で筋電図検査あるいは初診外来として当科に紹介された患者様、および当科に入院された患者様の臨床情報を後ろ向きに検討し、エントリー基準を設けて機能的筋力低下および器質性麻痺患者様をリストアップします。それらの症例の種々の臨床的特徴を検討します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院神経内科、横浜労災病院、東京慈恵会医科大学医学部附属病院、亀田総合病院

〔個人情報の取り扱い〕 収集したデータは、個人毎に情報を加工したデータとしてデータ管理責任者が常時施錠される医局内のコンピュータのハードディスクに責任をもって保管し、パスワードを設定して研究責任者及びデータ管理責任者以外がアクセスできない体制とします。研究終了後には研究責任者が保管の対象となる記録類一式をDVD-Rに記録し、封かん用封筒に詰め、帝京大学医学系研究倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センター(以下、「TARC」)にて保管させていただきます。TARCによる保管期間は研究終了から10年であり、研究責任者から延長の申し出がない場合は、TARCにより適切に破棄されます。また、学会論文等での公表は集計結果のみであり、個々人の情報は提示しません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究代表者：帝京大学医学部脳神経内科・助教 神林隆道

研究分担者：帝京大学医療技術学部視能矯正学科・教授 園生雅弘

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院神経内科(03-3964-1211)〔内線 7346〕